



第44回新春囲碁将棋大会

(1月29日 中央公民館)



この大会は、昭和37年から開催されており今年で44回目。今年最初の大きな大会とあって、6歳から81歳までの約70名の棋士が市内外から参加。囲碁と将棋に分かれて、若いも若きも「盤」を挟んだ真剣勝負と世代間の交流を行っていました。

第15回市民綱引き大会

(2月5日 ホワイトキューブ)



小学生から一般まで25チーム・約400人が参加し、選手・応援団一体となった熱戦を繰り広げました。

【各部門の優勝チーム】

- 小学生の部 アルバルクキッズSP
- 中学生の部 チーム1-1A(白川中)
- 一般の部 福岡スポーツクラブ

道を体験してみませんか

(2月5日 白中体育館・武道館)



体育協会に加盟する柔道、剣道、空手道のスポーツ少年団が、多くの子どもたちに武道に興味をもってもらうと、武道の体験イベントを合同で開催しました。会場には、体験をする子どもたちの大きな声が元氣よく響いていました。

これからもお元気で

日下かついさんに松竹梅敬老祝金

1月18日に満100歳の誕生日を迎えた日下かついさん(福岡深谷)宅を風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金100万円を贈り、長寿を家族の皆さんなどととも祝福しました。



かついさんは若いころから朗らかな性格で周囲の誰からも好かれています。現在はベッドの上で過ごす毎日ですが、食べ物は好き嫌いなく食べています。

また、大相撲が大好きで、中継は欠かさず見ており、最近では琴欧州関がお気に入りとのことでした。

新成人!これからもがんばって!

手をつなぐ育成会「新成人を祝う会」

1月15日、中央公民館において障害を持つ子どもの親たちでつくる「白石市手をつなぐ育成会」が、新成人を祝う会を開催しました。今年、成人を迎えたのは、佐藤淳一さん、井上俊祐さんのお二人。祝う会では、新成人のお二人を囲んで出席者全員での記念写真の撮影を行いました。風間市長をはじめ多くの来賓の皆さんからお祝いの言葉をいただいたお二人は、「これからもがんばります」と誓いの言葉を述べました。



大平地区全域をカバーします!

大平地区安心パトロール隊が発足

大平小学校で1月23日、大平地区安心パトロール隊の発足出動式が行われました。

これは近年、全国的に児童殺傷事件などの犯罪が多発していることを受け、自分たちの住む地域の安全を自分たちで守ろうと、自治会や防犯協会などの諸団体が団結・協力し、児童たちを守る防犯組織を発足したものです。大平地区では今後、住民(パトロール隊)の皆さんが普段の生活を行う中で、常時防犯活動を展開していきます。



テレビゲームより楽しいよ!

第二幼稚園で「昔あそびの会」を開催

第二幼稚園で1月20日、地元南町の「ボランティアみなみの会」の皆さんを先生に迎えて「昔あそびの会」が開催されました。



この催しは、地域のお年寄りの皆さんとふれあい、温かさを感じながら、昔ながらの遊びの面白さを体験させていきたいと開催しています。

「こま回し」や「あやとり」など、普段はあまり体験したことのない遊びを、子どもたちは慣れない手つきで楽しんでいました。

大切に使ってください!

白石第一小学校の児童が車いすを寄付

1月24日、市総合福祉センターで白石第一小学校の児童6名が訪れ、白石市社会福祉協議会に車いす2台を寄付しました。



同校では、2年ほど前から児童会が中心となり、アルミ缶を回収した収益金で車いすを購入し、福祉施設に寄付する活動を行っています。今回寄付された車いすは、各学校での福祉体験授業などに活用されることで、児童たちは社会貢献への感謝の言葉を伝えられると、照れくさそうな表情を浮かべていました。

学生気分楽しく勉強

東中学校「一日限りの大人の学校」を開催

1月21日、東中学校で「一日限りの大人の学校」が開催されました。

1時間目は、スクールカウンセラーの谷津成子さんから「よりよい人間関係を求める気付き」について、お話をいただきました。

2時間目は、福島県梁川在住の「おはなしおばさん」こと横山幸子さんをお招きして、体験談と民話を交えた笑いと涙、そして心温まるお話をいただき、一般教室を使った久しぶりの「授業」に、参加した保護者も真剣に耳を傾けていました。



月曜日から金曜日まで、つまり学校のある日の朝に、Mさんが信号機のある四つ角に立っていらっしやるのを見かけます。お会いした際にどうして立っていらっしやるのかをお尋ねしたところ、自分に時間が許されたときに、地区の小学生が登校してくるのを待つ、その子どもたちとともに小学校の門まで一緒に歩いて行っているとのことでした。話を聞くまでは、交差点での交通安全指導かな?と思っていました。後日、小学生を見守りながら歩いているMさんの姿を見ました。その姿は慈しみにあふれ、我が孫を見守るかのような柔和で温かいお姿でした。

市内には同じような活動をされている方や、帰宅する子どもの安全を見守っている方など、「子ども

もは市の宝 地域の宝」を実践していただいている大勢の方々がいらっしやることと思います。その方々に改めて心から感謝を申し上げます。「ありがとうございます」そして「これからもよろしくお願

り、しかられたり、みんなにいつも見守られながら成長してきました。いまさらながら、地域の方々の慈しみの中ではなくまれてきたのだと感謝いたしております。でも今では、それはもう遠い良き時

思い、尊重し合うことだろうと思います。でもそれは難しいことなのかもしれません。ついつい自分のことを棚に上げて、相手の良いところを見ず悪いところを探してしまいがちではないでしょうか?

切なのではないのでしょうか。そのとき初めて仁徳を得られることと思います。小学生を見守るMさんのように... 私「仁」の玉を得られるように皆さんと「共に」日々精進してまいりたいと思っております。

風間市長の「虫のナニヤキ」 「仁」

いたします。

私たちが子どものころは、今考えてみれば学校の行き帰りには「いつてらっしやい」「おかえり」などと、よく近所のおじちゃんやおばちゃんに声を掛けてもらいましたし、また時には褒めてもらった

代になってしまったのでしょうか?

「仁」を辞書で引くと、「慈しみ。思いやり。特に、孔子が提唱した道徳観念。自分と同じ仲間として、すべての人に接する心」と書かれています。これは相手の立場に立ちながら、その人を愛し大切に

話は大幅に変わりますが、「カレーライス」と「ライスカレー」の違いが分かりますか? 諸説があるようですが...

